

「地域交流再生事業—ほのぼの温泉巡回バスプロジェクト」事業

仮設住宅の被災者への温泉入浴サービスを通じて見えてきた  
地元住民や被災者が一体となった地域コミュニティ再生への夢

「失ったものも多いが、新しく生まれたものもある」と、NPO法人ふよう土2100の理事長・里見喜生さんは語る。被災者支援を通じて改めて見えてきた地元の貴重な資源である温泉の偉大さ。それを媒介に、地元住民、被災者、観光客が交流できる舞台を創造していきたいという言葉に、新しい可能性を感じた。

地元を誇りに思う人材育成の提案と  
大震災以後の復興事業に精力的に取り組む

東日本大震災後の2011年11月に発足したNPO法人ふよう土2100だが、活動の原点はそれ以前から続けてきた地域づくりにある。

「地域の宝を見直して、地域の輝きを取り戻し、地域を愛する人材を創り上げようという目的で、2007年から『いわきフラオンパク』というイベントを毎年開催し、のべ300種類の体験交流プログラムを実施しました。そうした活動を通じ、いわき市の資源や歴史文化を探し出すこと、それを地域住民で磨くこと、地域住民と地域外からの訪問者が体験交流することという3つの柱を基本に、地元を誇りに思う人材育成を提案してきました」

同法人の理事長、里見喜生さんはそう語る。発足以降は、いわき市を中心に復興事業に精力を注ぎ、母と子ども向けの体験交流プログラム「キッズオンパク」の実施や農業加工品業者と連携した全国の物産展のコーディネートのほか、被災地の現状を全国に発信する交流体験型スタディツアーを企画して、県外からののべ200名の視察訪問団への添乗などに取り組んできた。さらに障がい者家族のためのサポート事業として「交流サロンひかり」を開設したほか、地域活性化のためのイベントと

して、耕作放棄地での綿花栽培や手作り太陽光パネル設置などを行う「おてんとSUNプロジェクト」などを展開している。

「私を含め、現在5名の理事で活動していますが、ユニバーサルデザイン、伝統芸能、障がい者支援、ライターなど、それぞれがスキルを持ち、情報交換しながら課題を見つけ、自分たちができる範囲で解決していく、そのためのフィールドとして機能しているのが、ふよう土2100という組織です」と、里見さん。

仮設住宅の避難者に対して  
送迎バス付き温泉入浴サービスを実施

AJOSCの助成を受けて、ふよう土2100が行った事業が温泉巡回バスのプロジェクトである。これは、福島県双葉郡8町村および南相馬市からいわき市の仮設住宅に避難を余儀なくされている方々を対象に、いわき湯本温泉の3軒の温泉旅館までバスで送迎し、無料で温泉入浴を楽しんでもらうというもの。2012年4月下旬にスタートし、



仮設住宅に避難を余儀なくされている方々を、温泉旅館にバスで送迎し無料で温泉入浴を楽しんでもらった



バスのなかや入浴後に旅館でくつろぐ参加者

60日あまり実施された。

「いわき市内には28カ所の仮設住宅があり、借り上げ住宅と合わせると、現在でも約23000人の避難者がいます。このうち、いわき湯本温泉に近い7カ所の仮設住宅を回り、1日20名を定員として、チャーターしたマイクロバスで旅館まで送迎しました」と、里見さん。

事業としては終了したが、仮設住宅がある限り、このサービスを継続していきたいとし、現在は有料での入浴サービスが続けられている。バスのなかや入浴後に旅館のロビーでくつろぐ参加者を間近に見て、里見さんは多くのことを感じたという。

「お風呂上がりに世間話に花を咲かせている様子を見ると、みなさん、やはりしゃべりたいんです。仮設住宅では誰とも話すこともなく、1日が終わってしまうという人がいます。夜、淋しくて泣いてしまうという人もいます。でも、こうしたことがあると、みんなと話すことができ、笑顔でいられるとおっしゃってくださいました。活動的なことが嬉しいという人でも、温泉ならお風呂につかるだけですから、それがいいという人もいました。お風呂のなかで気が合った同士が誘いあって旅行に出かけるという副次的な効果も生まれました。この事業を以前から続けているフラオンパクと連携させ、地元の人々と被災者、あるいは観光客などが交流できる場を作っていきたい」と、里見さんは話す。

担当者より



自分でも可能性を感じる事業でした。

NPO法人ふよう土2100  
理事長  
里見喜生さん

温泉とコミュニティを結びつけることで有効なものが生まれると確信でき、自分でもその可能性に驚いています。被災者も地元住民も、温泉を通じ、新しい未来へ向けて肩を組んで、ともに寄り添いながら生きていきたい。それもこれもAJOSCの支援があったからできたことと感謝しています。

里見さんは、今回の事業を通じて、改めて温泉という資源の素晴らしさ、偉大さを実感しているという。「メンタルケアも含め、温泉を活用した予防医学のひとつのモデルを構築することで、現代版湯治場としての新しいいわき湯本温泉の姿を模索していきたい」とも話す。「被災者支援が新たな地域づくりにつながっていくような取り組みを今後も続けていきたい。私は未来づくり業に転職したのです」という里見さんの言葉に、地域と共に生きることを決めた人の強い決意がうかがわれた。

【第3回】5月28日(月)【第4回】5月29日(火)  
場所：古滝屋 先着20名 温泉無料 バス送迎  
・集合場所と時間  
広野町仮設住宅常盤第2一午前10時00分  
・解散場所と時間  
広野町仮設住宅常盤第2一午後2時00分  
タオル、バスタオル、昼食はご持参ください。  
ごみはお持ち帰りください。  
お問い合わせ NPO法人ふよう土2100  
担当：里見喜生 0246-43-2191 090-3980-0636  
この事業は全日本社会貢献団体機構の支援により実施されております

仮設住宅に配布した温泉巡回バスのチラシ